

ともに学び、ともに輝く学校 ～自分も仲間も大切にしよう～

学校長 木村 信一郎

愛川東中学校区の保護者の皆さま、地域の皆さま、今年度新たに着任いたしました学校長の木村信一郎です。3月までは田代小学校の校長でした。愛川町でお仕事をするのは田代小が初めてでしたので、まだまだ町全体のことは判っておらず、地域を知ることから始めていくところです。着任式や入学式で体育館に集まった人数の多さには早速驚きました。これまで高山前校長先生が掲げておられた、学校教育目標「ともに学び、ともに輝く学校」～自分も仲間も大切にしよう～を引き続き最上位の目標に据えて、生徒が自分で考えることができる環境づくり、安心安全な環境づくりを進めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

いろいろな面で先行きが不透明で、将来の予測が困難な社会、VUCAの時代と言われ始めてしばらく経ちます。そんな中で今まで以上に自分の頭で考える力、情報を集めて理解する力が大切になるのは間違いないでしょう。物事を柔軟にとらえる想像力、創造力も求められるかもしれません。僕は1969年生まれで、自分の誕生日の新聞の見出しは「人類月に立つ」でした。アポロ11号が月に行ったときなのですが、それがJ-POPで「僕らの生まれてくるずっとずっと前」と歌われた時（1999年）には結構驚きました。しかし考えてみると自分が子どものころに映画やテレビ、漫画の世界にしかなかったスパイやドラえものの秘密道具のようなものが、相当な数実現しています。科学技術の面ではつい先日も、アメリカの企業「Colossal Biosciences（コロッサル・バイオサイエンス）」がおよそ1万3000年前に絶滅したダイアウルフの子どもを復元することに成功した（まだ同社が情報公開しただけで、科学的な根拠を示して学術誌で発表されたものではありませんが）と発表しました。ダイアウルフの歯や頭蓋骨の化石から採取したDNAのもつ情報を解析し、現代の他の種類のオオカミの細胞を編集することでダイアウルフの特徴を持つ子どもが誕生したということです。これはまさに映画「ジュラシック・パーク」（1993年）で恐竜を生み出すのに使われた（という設定になっていた）手法で、30年経つとこんなことも起きるのかと思いました。

「八十日間世界一周」「海底二万マイル」などを著したフランスの作家ジュール・ヴェルヌは、「人間が想像できることは、人間が必ず実現できる」という言葉を残しています。いまの子どもはどんなことを想像しているのでしょうか。自分が子どもだった時代と現在を比べてみたとき、ちょっと心配になるのは身の回りにある道具や物事が便利になるとともに複雑になり、ブラックボックス化していることです。買ってもらったおもちゃを分解したら図鑑で見たのと同じようなものが使われているのを見ることができ、壊れたら自分で修理することもできた頃とは違って、仕組みがわからないものに囲まれて生活しているような気がします。インターネットで検索すれば、まあまあのところまで情報を手に入れることはできますが、その前にまず「知りたい」と興味をもたなければ何も始まりません。物の仕組みだけでなく社会の仕組みについても同様です。子どもが社会をつくる人になるには、興味を持ってもらわなくてはなりません。

学校生活で身に付けてほしい力は多岐に渡り、また時代とともに変化します。場合によっては競争があったり挫折を味わったりすることもあると思います。ともに子どもを支え、育てられるよう、保護者の皆さま地域の皆さまにはこれまで同様、東中サポーターとして、本校の教育活動にご理解ご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。